

## 思春期課題の基本的ニーズの把握方法に関する研究

研究協力者	梶原由紀子	（福岡県立大学看護学部）
研究協力者	渡邊多恵子	（淑徳大学看護栄養学部）
研究協力者	原田 直樹	（福岡県立大学看護学部）
研究分担者	松浦 賢長	（福岡県立大学看護学部）
研究代表者	永光信一郎	（福岡大学医学部）

### 研究要旨

成育医療等基本方針から導いた思春期課題に関連する知識・情報 22 項目に関して、そのニーズを把握することと把握方法を検討することを目的としたインタビュー調査を行った。学校から知識・情報を得たとする項目はわずかであったが、中には学校教育で必修の項目もあり、知識定着の難しさがうかがえた。また、家庭やメディア等から知識・情報を入手したという項目も複数存在し、知識・情報の不確かさが懸念された。ニーズが高く、かつほとんど知識・情報が得られなかった項目は不登校や発達障害を含むメンタルヘルスに関する項目であった。性に関する項目は学校をはじめとして知識・情報を得ている内容もあったが、そのみでは知識定着が難しく、育児・妊娠・出産とからめた情報提供が求められる。

各項目の理解は「妊娠、出産等についての希望を実現する」という表現以外は難しいところは見られなかった。今後は、別の大学の学生を対象にすることと、男子学生を対象にすることにより、思春期課題のニーズ整理と項目開発を進める必要がある。

### A. 研究目的

成育医療等基本方針の「Ⅱ-2-(4)学童期及び思春期における保健施策」に記載されている保健施策・思春期課題に関して、現在青年期にある大学生を対象に、インタビュー形式で思春期の“自分”に必要なだった（当時それらを得た記憶が無い）と考える知識・情報等について基本的ニーズを把握する方法を開発することを目的とする。同時に把握されたニーズをもって思春期課題への組織的対応の設計・社会実装に資することを目指す。

### B. 研究方法

A 大学の大学生 3 名を対象にインタビューを行った。対象者はいずれも 20 歳を超えた女子学生であった。インタビューを行った者は同性の研究協力者である。なお、感染対策として、インタビューはオン

ラインにて実施した。

インタビューする項目については、成育医療等基本方針の「Ⅱ-2-(4)学童期及び思春期における保健施策」を中心に 22 項目を導き出した。なお、こちらの 22 項目（表 1）を対象者にも開示・共有してインタビューを進めた。

表 1. 試作したインタビュー 22 項目

- ・ 栄養・食生活や運動等の生活習慣に関する知識・情報
- ・ やせや肥満に関する知識・情報
- ・ 健全な口腔機能の保持・増進に関する知識・情報
- ・ アレルギーに関する知識・情報
- ・ 月経に関する知識・情報
- ・ 妊娠、出産等についての希望を実現するための知識・情報

- ・ 妊娠・出産等に関する医学的・科学的に正しい知識・情報
- ・ 避妊や予期せぬ妊娠に関する知識・情報
- ・ 人工妊娠中絶に関する知識・情報
- ・ 梅毒及びH I V感染症を含む性感染症問題に関する知識・情報
- ・ がんやがんの予防に関する知識・情報
- ・ 性暴力・性被害に関する知識・情報
- ・ 性的虐待に関する知識・情報
- ・ 心の問題に関する知識・情報
- ・ 自殺に関する知識・情報
- ・ ゲーム依存に関する知識・情報
- ・ 姿勢や運動器に関する知識・情報
- ・ 不登校に関する知識・情報
- ・ 発達障害や特性に関する知識・情報
- ・ スポーツと健康に関する知識・情報
- ・ タバコやアルコールに関する知識・情報
- ・ 大麻や覚醒剤、違法ドラッグ等の薬物に関する知識・情報

(倫理面への配慮)

対象者には、研究参加は任意であることを研究協力者が口頭で説明し、了承の上参加してもらった。性に関する内容を含むこと及び医療機関等に繋ぐべき内容が語られる可能性があることを鑑み、インタビューを行う者は同性の研究者とし、また適切な支援を行うことを研究分担者と研究協力者で合意した上で、インタビューに臨んだ。

## C. 研究結果

女子学生 3 名を対象にしたインタビュー調査結果を下記に項目ごとにまとめた。各項目の知識・情報等に関して、当時のニーズ状況に関しては◎を、現在振り返ってのニーズに関しては○を、さらに各項目の質問・方法に関しては●を付した。

**【栄養・食生活や運動等の生活習慣に関する知識・情報】**

- ◎学校よりも家庭で知識を得る方が多かった。
- ◎体型が気になる時期（中学生）に何の知識もなくダイエットをしていた。

**【やせや肥満に関する知識・情報】**

- ◎特に知識や情報を得る必要性は感じていなかった。
- ◎体型が気になる時期（中学生）に何の知識もなくダイエットをしていた。
- ◎知識が身につけていたかは不明だが、保健だよりや授業で小学生の頃から情報は得ていた。

**【健全な口腔機能の保持・増進に関する知識・情報】**

- ◎小学校時代は歯科健診があり、むし歯の知識・情報はあったが、歯周病に関してはなかった。むし歯が無く歯医者に行くことがなかったため情報を得る機会もなかった。
- 家庭によって関心度が異なるため、定期健診の重要性を積極的に伝えてほしかった。

**【アレルギーに関する知識・情報】**

- ◎友達にアレルギーの人がいたので、僅かな知識は持っていた。
- ◎自分自身がアレルギーを持っていたので、知識はあった。外泊を伴う行事では、アレルギーが出ないか心配だった。

**【月経に関する知識・情報】**

- ◎小学校 4 年生で月経について学んだ。しかし、おりものについては学んだ記憶がない。自分の体で何が起きているのかが不安だった。おりものについては、少女マンガで知識や情報を得た。
- ◎月経不順で困っていた。知識がなく病院に行くべきかなど相談できる環境が欲しかった。
- ◎男子は、月経について女子の特別なものという認識だった。
- 振り返ると月経について男子も理解するべきと思っている。それは、性教育が男女別で実施されているのが問題だったと考えている。

**【妊娠・出産等についての希望を実現するための知識・情報】**

- ◎当時は深く考えていなかった。知識や情報を得る必要性は感じていなかった。
- ◎妊娠、出産のイメージが無かった。

○子育てにかかる費用（教育費、養育費など）の情報が小学時代にあれば、子育ての大変さが理解でき、最終的に予期せぬ妊娠の理解へと繋がっていくと考えている。

**【妊娠・出産等に関する医学的・科学的に正しい知識・情報】**

- ◎正しい知識は持っていなかった。
- ◎学校で学ぶ機会があったため、知識・情報は持っていた。
- 妊娠・出産等を含む性教育は、男女一緒に学ぶべきと思っている。

**【避妊や予期せぬ妊娠に関する知識・情報】**

- ◎高校生時代に学校で避妊について学んだ。
- 振り返ると、具体的な内容の深い情報を得たかった。
- 高校生時代に避妊の大切さや子育ての大変さの深い知識・情報が欲しかった。

**【人工妊娠中絶に関する知識・情報】**

- ◎人工妊娠中絶という言葉は知っていたが、知識・情報は持っていなかった。特に知りたいと思わなかった。
- ◎人工妊娠中絶という言葉は知っていたが、理解していなかった。
- 伝える年代を選び内容も工夫して、深い知識・情報を得たかった。

**【梅毒及びHIV感染症を含む性感染症問題に関する知識・情報】**

- ◎高校生時代に外部講師を招いて「命の教育」を学んだ際に、知識や情報を得ることが出来た。
- ◎小中学生時代は、学校で学ぶ機会はあったが理解できなかった。高校生時代も現実味はなかった。
- 高校生時代に性感染症も身近な問題であるという知識・情報を得たかった。
- 質問項目がイメージしにくい。「希望を実現する」という箇所には少し説明が必要。

**【がんやがんの予防に関する知識・情報】**

◎生活習慣が関わっているのは理解していたが、知識の理解はしていない。しかし、日常生活において困りごとはなかった。

◎がんやがんの予防に関する知識・情報は持っていなかった。

**【性暴力・性被害に関する知識・情報】**

- ◎高校生時代に外部講師を招いての講義があり、知識・情報を得ることができた。
- ◎学校よりもニュースで知識・情報を得ていた。同世代で知識の差があると感じていた。
- 月経が始まる年代から注意喚起を促すことも必要だと感じている。

**【性的虐待に関する知識・情報】**

- ◎知識・情報はなかった。
- 学校で相談機関の情報を発信することは、必要だと感じている。
- 早い時期から知識・情報を得ることが重要と考えている。

**【心の問題に関する知識・情報】**

◎中学生時代は、ある程度知っていた。学校では学ぶ機会がなく、正しく理解できなかった。

**【自殺に関する知識・情報】**

◎自殺に関する知識・情報は持っていなかった。高校生時代は、自殺に関するイメージも無く、意識していなかった。

**【ゲーム依存に関する知識・情報】**

- ◎小学生時代は、知識や情報を得る機会はなかった。
- 当時、セルフコントロール能力を高める知識を学ぶ機会があってもよかったと感じている。
- 小学生の頃はゲーム依存に関する知識・情報は持っていなかった。
- ◎学校で知識・情報は得ていた。
- ゲーム依存は、家庭環境も大きく影響しており、保護者にも知識や情報を得る機会があるとよいと感じている。

### 【姿勢や運動器に関する知識・情報】

○中学生時代に姿勢に関する知識・情報が欲しかった。

◎姿勢に関しては、小学校時代に担任から知識・情報を得てクラスで実践する機会もあった。◎運動器に関する知識・情報は持っていなかった。

### 【不登校に関する知識・情報】

◎親世代と子ども世代で不登校の捉え方が違うと感じていた。当時は不登校について説明できる程の知識がなかった。

◎中学生時代に不登校生がいた。不登校についての知識や理解がなかったため、不登校生と関わる事が出来なかった。

○中学生時代に知識や情報が欲しかった。

◎小学校高学年から中学生にかけて不登校生がいたが、不登校の要因を知る機会はなかった。

○不登校に関する知識・情報があれば、不登校生に関わることができたと思う。

### 【発達障害や特性に関する知識・情報】

○同じクラスに発達障害の子がいた。何の障害か情報を得ていたら、周りの対応も違ったと感じている。  
◎発達障害や特性に関する知識・情報は持っていなかった。

### 【スポーツと健康に関する知識・情報】

◎スポーツと健康の関係性の知識は持っていなかった。競技ではなく楽しいスポーツのやり方の情報が欲しかった。

### 【タバコやアルコールに関する知識・情報】

◎タバコやアルコールが体に悪いのは知っていた。特に知識・情報を得る必要性は感じていなかった。

### 【大麻や覚醒剤、違法ドラッグ等の薬物に関する知識・情報】

◎学校で知識・情報は得ていた。

### 【その他】

◎ニキビなどの肌のトラブルが気になって学業に集

中できない時期があった。知識や情報が欲しかった。

## D. 考察

22項目それぞれについて、3名から別々にインタビューをした結果を得た。学校で知識・情報を得ていたとする項目(すなわち学校で学んだ記憶があり、かつ内容を理解している項目)はわずかであり、代表的なものは「薬物関連」の知識・情報であった。その他の項目では、部分的に学校での知識・情報提供があったものの、「振り返って見たところ」からのニーズを網羅しているわけではなかった。

「栄養関連」の知識・情報は家庭で得ていたという回答が得られているが、他の項目(例えば「口腔関連」)では家庭による関心度の差についても言及されており、家庭を通じた知識・情報提供のみでは知識格差が生じる可能性が示唆された。

学校の教科(たとえば「保健」)で必ず学ぶにも関わらず、その知識が定着していないと考えられる項目があった。代表的なものは「性感染症」であるが、中学校3年生で必修となっている項目であるが、知識の定着が難しい項目だと推測された。

不登校や発達障害を含むメンタルヘルスに関する知識・情報はほとんど得られていなかった。同時に、それらは身近な場合があり(不登校など)、クラスメートへの対応が全くできなかった等の「後悔」も複数述べられていた。メンタルヘルスに関する知識・情報提供は欠けている部分といえる。

性に関する知識・情報は、学校の授業(講演会を含む)で得られる部分も多いことがわかったが、それのみでは発達段階の興味関心度によって知識の定着が見込めないこともあり、子育てや妊娠・出産と絡めて知識・情報提供することが望ましいことが伺えた。

姿勢や運動器の知識・情報提供はこれからの課題であると同時に、今回項目にあげていなかった「皮膚トラブル」に関する事項も思春期課題のニーズとしては大きなものであることが伺えた。

今回試作した22項目については、大学生であれば項目の理解には難しいところは無かったが、ひとつだけ「妊娠、出産等についての希望を実現するための知識・情報」に関しては、ニーズ把握に関して文

言を平易化する必要があることが明らかになった。

今後は、別の大学の学生を対象にすることと、男子学生を対象にすることにより、思春期課題のニーズ整理と項目開発を進める必要がある。

## E. 結論

成育医療等基本方針から導いた思春期課題に関連する知識・情報 22 項目に関して、そのニーズを把握することと把握方法を検討することを目的としたインタビュー調査を行った。学校から知識・情報を得たとする項目はわずかであったが、中には学校教育で必修の項目もあり、知識定着の難しさがうかがえた。また、家庭やメディア等から知識・情報を入手したという項目も複数存在し、知識・情報の不確かさが懸念された。ニーズが高く、かつほとんど知識・情報が得られなかった項目は不登校や発達障害を含むメンタルヘルスに関する項目であった。性に関する項目は学校をはじめとして知識・情報を得ている内容もあったが、そのみでは知識定着が難しく、育児・妊娠・出産とからめた情報提供が求められる。

各項目の理解は「妊娠、出産等についての希望を実現する」という表現以外は難しいところは見られなかった。今後は、別の大学の学生を対象にすることと、男子学生を対象にすることにより、思春期課題のニーズ整理と項目開発を進める必要がある。

## 【参考文献】

文部科学省：小学校学習指導要領（平成 29 年告示），2017.

文部科学省：中学校学習指導要領（平成 29 年告示），2017.

文部科学省：高等学校学校学習指導要領（平成 30 年告示），2018.

## F. 健康危険情報

総額研究報告書にまとめ記載。

## 研究発表

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

なし

## G. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

### 1. 特許取得

該当なし

### 2. 実用新案登録

該当なし

### 3. その他

該当なし